

## マーケットの動き (2022年10月11日～10月14日)

先週の国内債券市場は、前週末比で金利はほぼ横ばいとなりました。海外金利の上昇圧力が強まる中、国内長期金利は超長期債を中心に軟調に推移しました。日銀は連日指値オペを実施し、10年国債利回りを許容変動幅の上限とされる0.25%に抑え込んでおり、国内債券市場の流動性が低下しています。先週は新発10年国債の取引が不成立となる日が多く、10年国債利回りは許容変動幅の上限付近からほぼ変動することなく週を終えました。

## 投資環境見通し (2022年10月)

## 国内長期金利はレンジ内で推移

日銀は現行の緩和的な金融政策を当面継続するとみられますが、国内物価の上昇基調を受けて、投資家の間では金融緩和政策を修正するとの観測も高まりやすい状況となっています。国内長期金利は上昇圧力がかかりやすい状況が続くと考えられますが、一方で投資家の債券需要も根強く、レンジ内で推移するとみています。

	10月14日	変動幅 (騰落率)			
		前週比	1カ月前比	6カ月前比	1年前比
10年国債利回り (日本、%) (変動幅)	0.24	▲0.00	▲0.00	0.01	0.16
NOMURA-BPI総合 (騰落率)	372.60	▲0.51%	▲1.16%	▲2.02%	▲3.71%

※期間別騰落率の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応答日(休日の場合は前営業日)までとします。

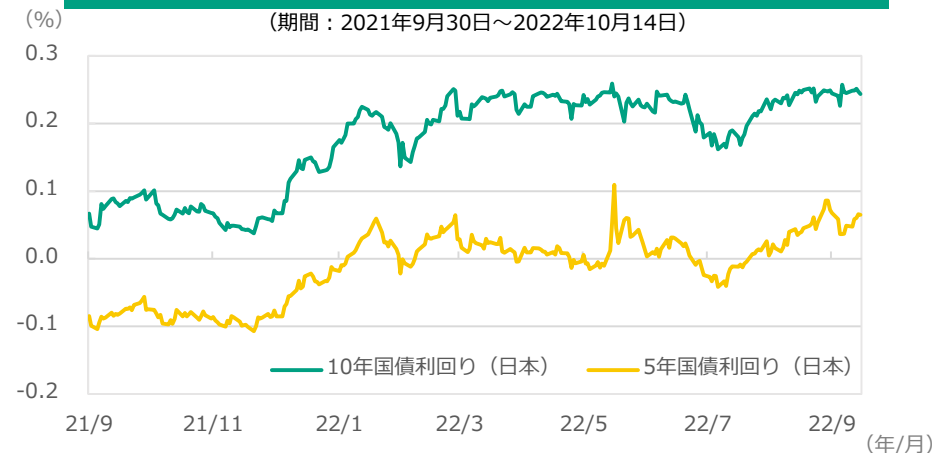
※最新の「投資環境見通し」もご覧ください。

[https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload\\_pdf/202210\\_outlook.pdf](https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload_pdf/202210_outlook.pdf)

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類 (目論見書等) ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。●使用インデックスについては、マーケット見通し (総合) の最終ページをご確認ください。<https://www.myam.co.jp/market/report>

## 日本国債利回りの推移

(期間: 2021年9月30日～2022年10月14日)



## NOMURA-BPI総合指数の推移

(期間: 2021年9月30日～2022年10月14日)



※2021年9月30日の値を100として指数化

※出所: FactSetのデータを基に明治安田アセットマネジメント作成